

オリーブの会通信

مجموعة الزيتون

2023年8月20日第33号 (通巻39号)

オリーブの会

大阪府豊能郡能勢町平通101-453

tel/fax:072-737-9454

mail: oribunokai@gmail.com

facebook:oribunokai

イスラエルの深まる危機 とパレスチナの矛盾

深まるイスラエルの危機

イスラエル内での反ネタニヤフ政権のデモは、1月以来現在に至るまで継続している。そして、その抗議は、イスラエル軍内部にも広がっており、イスラエルの安全保障面でも、影響が出始めている。しかし、ネタニヤフは、一度は延期したものの、最高裁の権限を弱める試みを続けている。

イスラエルの「建国」以来の危機は続いている。世俗的なアシュケナジを中心とするユダヤ人たちは、イスラエルが「民主国家」であるという幻想の中で生きており、ネタニヤフの政策は、その幻想を破るものである。しかし、ネタニヤフは、自らの訴追を避ける目的と、連立しているファシストをつなぎとめるためにも、反民主主義的な政策をすすめる必要がある。

また、西岸でのなりふり構わないパレスチナ人への攻撃と拡大する入植者たちの暴力、パレスチナ人の追放と家屋の破壊、土地の併合と入植地の拡大で実質的な併合がすすんでいる。

世俗的ユダヤ人は、現在のイスラエルの状況を憂いて、国外に移るものが増えており、「民主主義国家」の幻想がはがれつつある。

また、外交的にも、正常化の本丸であるサウジとの正常化はまともならず、中東の中で孤立を深める結果となっ

ている。サウジとの問題では、パレスチナ問題もあるが、最大の問題は、原子炉をサウジが求めていることである。サウジは、すでに米国に頼らなくとも、中国、ロシアとの関係でも実現できる可能性をもっており、米国、イスラエルが否定しても、独自進められる条件を作っている。イスラエルの政権内部からサウジとの合意は、時間の問題とってみたり、まだ合意は時間がかかると言ってみたり、サウジが原子炉を保有することは問題ないといったり、それを否定したりと混乱している状況がわかる。

パレスチナ内の矛盾

イスラエルの攻撃にしたいして、パレスチナ諸党派は、抵抗闘争を行った。しかし、PA(パレスチナ自治政府)は、占領軍と戦うのではなく、抵抗闘争を行った戦士たちを拘束するという行動にでた。また、アッパースがジェニンにきた時とは、パレスチナの治安部隊は、占領軍をいれないようにした。

アッパースは、いつものように、イスラエルとの治安共同を破棄するというをいい、カイロでパレスチナ諸勢力の書記長会議を開催するとのべた。これもいつものことである。

ネタニヤフ政府は、PAの崩壊を防ぐということで、各種の便宜を提供することで、PAが決定的な崩壊に至らないようにしている。

イスラム聖戦は、PAが彼らの戦士を釈放しなかったことで、書記長会議をボイコットした。PAは、法と秩序を守るためとしているが、それは口実にすぎない。

そうした状況にも関わらず、パレスチナ諸派がこの会議に参加するのか。その結果は、明白であり、これまでに行われてきた書記長会議でも同じであった。

それでもイスラム聖戦以外が参加しているのは、パレスチナ内部の分裂状態を終わらせたいということであった。PAがオスロ合意路線にしがみつかなければ簡単なことであるが、PAで得てきた特権を手放そうはしないし、欧米からの支持も捨てたくはない。一方でハマスはハマスで、ガザで得ている権力を放棄したくない状態にあ

り、理想的な結果になりえない状況にある。

そうした希望を持ってない状況の中でパレスチナの若者たちは、武装抵抗を拡大している。かれらにとっては、旧来のどの党派もかれらに希望を与えてくれるものではない。

イスラエルは、こうした抵抗運動の拡大をイランとヒズボラのせいにしてしている。

しかし、西岸に生きるパレスチナの人々にとって戦わない限り、生きることはできない状況におかれている。その状況を打開できないPAも諸党派に依存することはできないことからその選択肢は自ら戦うことにしかない。



投稿日 08/18/2023 (最終更新: 08/18/2023 at: 12:45)
マーン通信社の記事より

エフド・バラク

我々はどこに立っているのか？

今週の出来事の一部を紹介しよう：

1. ネタニヤフ首相とその閣僚たちは、最高裁判所に対するとんでもない脅迫キャンペーンに乗り出し、最高裁の判決に必ずしも拘束されないとほめかしている。これは、裁判開廷の朝、エスター・ハユット裁判長のドアにまだ馬の首が置かれていないというとんでもないディスプレイを彷彿とさせる。
2. ネタニヤフ首相とその側近による、イスラエル軍の参謀総長と司令官に対する不道徳な攻撃。彼らの責任を追及し、安全保障上の痛ましい事件で彼らを非難する道を

開こうとする、あからさまな試みである。これはすべて、ネタニヤフ首相が、国家の安全保障に直接的な影響を及ぼす法案の採決を行う前に、閣議を招集することを、権限を著しく逸脱した不道徳な行動で、阻止した後のことである。これまで、イスラエル軍の指導者たちがデモ指導者たちの“軍事クーデターの手下”であり、実際には“左翼の売国奴”であることはほめかされてこなかった。

3. 徴兵法をめぐる議論は、凡庸者の気まぐれというだけで、「成人の区切り」や特別な盾によって遮蔽されている。これは、“人民の軍隊”の破壊であり、“半召使-半学歴”という思想の強迫的な適用である。

4. 「蝶々」ダヴィド・アムサレム原子力担当大臣は、教職を返上し、有能で成功した公務員である国营企業局のミハエル・ローゼンボイム局長を、彼女がそうである

という理由だけで解雇することを進め、少女たちをバスの荷台に押し込め、毛布で肩を覆うことを強要した。街のど真ん中、白昼堂々、イスラエルで後に女性を待ち受けるものの見本というなら、幹部予備役将校は国家安全保障大臣に触発された恥づかしい策略で、許可された武器を返却するよう求められ、後にデモで「秩序違反者」として「刑事」責任をでっち上げる。土曜の深夜に羊の放牧に出かける“ユダヤ人テロリスト活動家”(羊は率先して反応する)は、実弾射撃と(殉教者の)死体で放牧を終える。もちろん、彼らには“大臣の支援”がある。

何が言いたいの？

幻想の終わり！いや、“ネタニヤフ首相は引きずり出されている”し、“リクードには緩和を求める者はいない”。“投石具的になる”ことすらない。イスラエルの民主主義を消滅させ、腐敗し、猥雑で、宗教的で、人種差別的な、事実上の独裁国家に変えるための計画的な衝突である。ネタニヤフ首相は、自分自身を裁判から救うために司法制度を破壊し、イスラエル軍の資格と団結、イスラエルの安全保障の基盤、兵士と市民の生命に対する確実かつ密接な危険を代償にしてでも、自分の道を歩むパートナーに謝礼を支払おうとしている。それは前例のない法律違反であり、国家を指導し続ける資格の現実に重い影を落とす明白な危険と見なされる。そしてこれらすべては、経済や米国との関係への深刻なダメージや、海外からの逮捕状やハーグの国際刑事裁判所への提訴からの戦闘員や指揮官の免責解除することを軽視することなく行われた。

それはイスラエルの民主主義に対するネタニヤフの反逆であり、政権が発足した日の憲法上の誓約違反に加えて、重大な汚職犯罪で裁かれている人物が首相の座に留まることを最高裁が承認する際に依拠する利益相反制度の明白な違反であることは言うまでもない。

彼はエンジンであり、責任があり、邪魔になるものはすべて踏みじると主張している。間違っただけではない！ネタニヤフ首相と彼の恐怖、そして彼の脱線が問題なのだ。パイロットと15人のボランティアが解決策であり、その逆ではない。パイロットと残りのボランティアは氷山の一角だ。彼らの粘り強さこそが、イスラエルをその進路、価値観、繁栄の源泉の喪失から救うのだ。ちょうど50年前、彼らの先輩や卒業生たちがイスラエルをあの大失敗から救ったように。

はっきり言って、侵略者はネタニヤフ首相であり、彼と並んで、ロットマン、レヴィン、スモトリッチ、ベン・グヴィールが、ハユット総裁が言うように、“裁判所の独立性を破壊し、イスラエルを民主主義のファミリーか

ら押し出そうとしている”暴動主義者なのだ。パイロットや兵士たちによる大規模な抗議行動や志願の延期は、市民の自動的な反応であり、反乱政府に対する国民の自主的な防衛行動である。

イスラエル軍の損害や負傷、悪化、さらにはこの大暴走の痛ましい結果に対する責任は、民主主義の信託者であるパイロットや市民の肩ではなく、侵略者であるネタニヤフ首相にある。

いずれにせよ、ネタニヤフ首相には危機を即座に和らげる簡単な方法がある。首相は親切にも、来週のクネセットの会合、つまり1日の審議で、第一読会を通過した、あるいは通過の準備が整っている9つの「クーデター法」のうち、道理にかなった議論の削減と、残りの9つの「クーデター法」を取り消すことを発表するだろう。私たちが直面している国家的危機の原動力がこれだけだというのは、妥当なことなのだろうか。満足できない犯罪者、強欲者、メシアニックな人種差別主義者もいるだろうが、彼らが政府を去ると決めたら、いったい誰が、何を待っているのだろうか？ネタニヤフ首相がこのような道を歩もうと考えていないという事実があるだけで、抗議する政党は「クーデター法案の取り消し」を目指しだけでなく、むしろネタニヤフ首相を筆頭とするクーデター扇動者の排除を明確に要求する必要があるのだ。それが、私たちが今日戦っている悪夢が二度と戻ってこないことを国民に保証する唯一の方法なのだ。

ここから先は？

今後6週間は、「合理性の議論」、「免責」、「利益相反」の問題に関する最高裁の控訴審判決によって試されることになる。私は、最高裁は脅しには屈せず、このような形であれ何であれ、実際に法律を廃止することが判決の中心線になると考えている。このような決定は、政府が最高裁の指示に従うことを拒否する限り、直ちに法的危機、「あからさまな危機」、あるいは地表下1センチの「占領の危機」を生み出し、政府が決定を否認し、決定との直接対決を抑えることを選択する一方で、民主主義を弱体化させ続けられれば、それは他の方法では崩壊するだろう。このような状況は、ネタニヤフ首相のパートナーに対する支配力を、リクード自体でさえ弱めるだろう。いずれにせよ、遅かれ早かれ、参謀総長あるいは彼に任命された大臣の別の衛兵が出した指示と、最高裁の決定との間で衝突が起こるだろう。私は、看守が検察官に向き、検察官が法に従うよう指示すると確信している。政府がゲートキーパーとされる検事総長を解任しようとするれば、100万人の市民が街頭に繰り出すだろう。抗議と市民的不服従は、政府が服従し、屈服するか倒れるまで

止むことはないだろう。

最高裁の決定を尊重しない政府と首相は、法律と三権分立の原則に反して行動しており、これは規約違反である。犯罪行為である可能性さえある。違法であり、スキャンダラスであり、黒旗が翻っている。それを阻止する目的で、あらゆる合法的な方法で行動することは、彼の権利であるだけでなく、すべての市民の義務でもある。従って、非暴力的市民的不服従は、個人や自尊心のあるあらゆる組織の道徳的義務である。

前任の法務大臣には欠けていた、類まれなバックボーンであることを証明した法務大臣にとっても、非常に難しい時代になるだろう。防衛大臣にとっては試用期間であり、他の門番たち、特に幕僚長にとっては難しい期間となる。私は彼ら全員の誠実さと気骨を信じているが、これらすべての上位権力者、検事総長、門番、さらには野党の指導者たちを見ていると、彼ら全員が、非暴力的で、力強く、創造的で、刺激的で、鼓舞的な市民的民衆の抗議行動の存在によって、公的な正当性と自分たちの仕事の道徳的妥当性、そして圧力に直面したときの堅忍不拔さを得ている。勝利には十分であり、勝利は必ず訪れる。

この複雑な時代に、潜在的な安全保障の悪化に起因する展開が起こる可能性もある：「その意味するところは、首相の法的地位からくる懸念であり、必ずしも国家とその安全保障の真の利益からくるものではない。誰がそう言ったか、もちろん覚えている読者もいるだろう。また、政治的な分野での展開もあるかもしれない。その場合、必要なのは、正しい決断を下すための、国民への問い合わせや信頼（これは見いだせないが）を排除した深い知恵である。

何をすべきか

私たちが直面しているこの時期に私たちに求められているのは、多くの実際的な手段を講じることであり、そのうちのいくつかは、オープンに議論することが適切である：

- 1) 9月12日に向けて、不服申し立てが解決するまでの間、抗議行動を増加・強化させること。
- 2) 理解、コンセンサス、調整のためのインフラを準備し、国家の行動の大部分を止めることを含め、短期かつ大規模な期間内に非暴力市民的不服従への移行を準備し、様々な分野に適した現実的な行動方法を結晶化すること。
- 3) 「反逆政府」の地位と法の支配、その違法性、それに対する防衛闘争の正当性、最高訴求事項の本質、首相の責任、門番の責任と義務とそれに任命された大臣（安全保障、国家安全保障、政府総裁）の責任と義務などの問題について、広範な国民的議論を喚起すること。

4) 事実上の独裁政権が即座に誕生する明白な危険性を考慮し、明確な決定がなされ、司法クーデターが完全に阻止されるまでは、大統領主導の「再協議」は行わず、ネタニヤフ首相を救うための作戦も行わないという、野党指導者との了解を得ること。私が正しい立場にあると主張する国家元首から、この論争において彼がどちらの側に立っているのか、そしてそこから現実的な結論はどのようなものなのか、その声を聞くことは必要であり、価値がある。

5) 高い専門的レベルと短い期限で必要とされるであろう苦情に対する緊密かつ質的な法的支援を継続すること。これに加えて、ピラミッドの頂点からの問題ある指導のもと、一部の警察機関の業務形態の不穏な悪化に鑑み、デモ活動や抗議行動への絶え間ない支援。この2つの分野において、抗議行動の隊列は、今日から包括的で有意義な活動を実施している。

6) 経済・社会の完全な崩壊、政府機関や象徴の閉鎖、法に反する行為の阻止に向けた準備。

まず決断力、そして幅広い合意

粘り強く創造的な努力。私たちにとって2つの大きな危険とは、泥の中に頭を埋めるという観点と、ドアの前にある現実的で近い危険から逃れるという観点である。ベストを尽くすなら今しかない。このような状況では、ある時点までは、時が来れば行動することは可能だと思われる。まだそうなっていないし、ある時点ですべてが好転し、私たちが対応するよりも早く事態が進展する。もし私たちが失敗すれば、私たちの生き方を決めるいかなる問題についても議論を動かすことができなくなり、ユベル・ナ・ハラリ教授がよく述べているように、公正で自由な選挙も行われなくなる。

他方で、感傷的な問題への誘惑、「希望的観測」はこれ以上ないほど簡単だ。広範な合意、対立に代わる対話、私たちが兄弟として共に座り、角を丸め、亀裂を滑らかにすることに憧れない人はいないだろう。それは確かに可能だが、共通の土台があればの話だ。裁判所の独立と、統治方法としての民主主義の貴重な基礎としての独立宣言の価値を求める2つの当事者の間で話が展開するのは、何とも言いようがない。民主主義、平等、法の支配を望む人々と、裁判所を浄化し、無制限の力で三権を支配しようとする人々との間に、解決策や交渉の道はない。

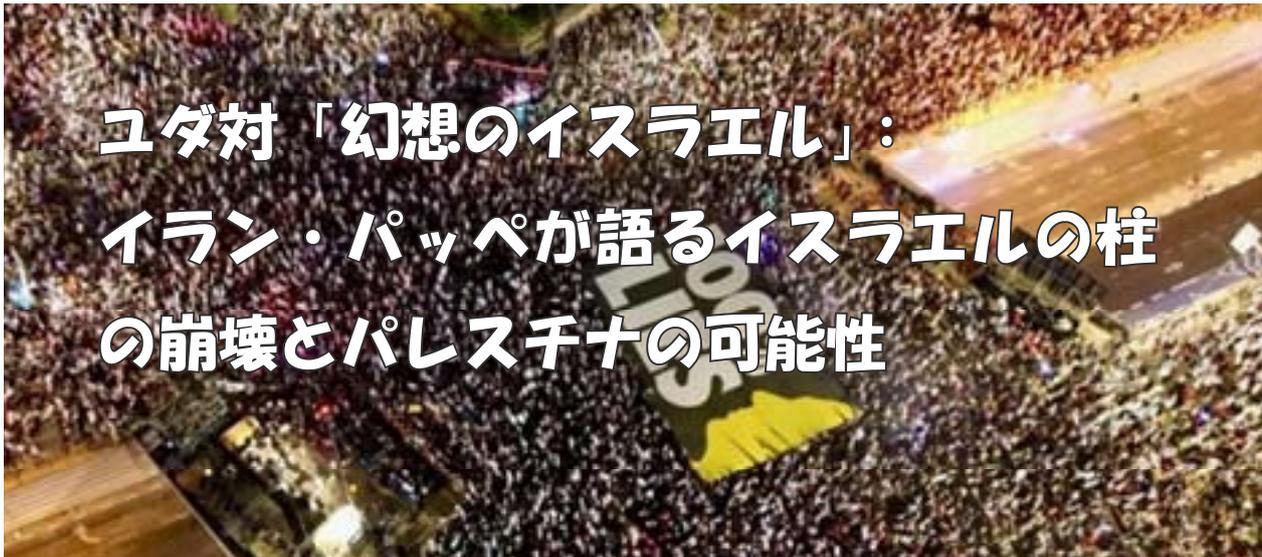
どんなに苦しくとも、解決した後こそ、和解のための対話の時であり、亀裂を癒す時であり、兄弟が共に座る時なのだ。そしてまた、市民権の文化、社会のさまざまなグループ間の関係、適切な憲法や少なくとも基本法の確立のための根本的かつ深遠な改革のためでもある：立

法と「市民の権利法典」は、いずれも多数決と特別手続きによって免責されている。

これは最も重要な闘いであり、私たちは生涯この闘いに関わり続けることになる。なぜなら、私たちは法とともにあり、民主主義の価値とともにあり、私たちの素晴らしい土地をロバにしたものすべてとともにあり、私たちの精神は強く堅固であり、私たちとともに多くの若者、多くの宗教者、穏健な右派のメンバー、そしてアラブ人や少数民族のメンバーがいるからです。私たちは何が正しいかを知っており、そのために勝利するまで戦う準備

ができています。それが私たちの使命なのです

エフード・バラック (バラク He-Ehud Barak.ogg 英語: Ehud Barak, 1942年2月12日 -) は、イスラエルの政治家、元軍人。第15代国防軍参謀総長。「独立」党首、国会議員。首相 (14代)、副首相、国防大臣 (18・22代)、労働党党首 (8・13代) を歴任した。



2023/07/31 記事, コメントリー「パレスティン・クロニクル」よりの転載

イラン・パッペ

解放され、脱シオナイズされた未来のパレスチナは、今となってはファンタジーのように見えるかもしれないが、幻想イスラエルとは異なり、地域的、世界的に、良識のあるすべての人々を活気づける最高のチャンスがある。

イスラエルの正当性、実際、その存続可能性は、主に2本の柱にかかっている。

第一に、軍事力、ハイテク能力、堅実な経済システムを含む物質的な柱である。

上記の要素によって、イスラエルは、武器、安全保障、スパイウェア、ハイテク知識、近代化された農業生産システムなど、イスラエルが提供するものから利益を得ようとする国々との強力な同盟ネットワークを構築することができる。

その見返りとして、イスラエルは単に金銭を要求するだけでなく、国際的なイメージの低下に対する支援も求めている。

第二に、道徳的な柱である。この側面は、シオニスト・プロジェクトと国家樹立の初期において特に重要だった。

イスラエルは2つの物語を世界に売り込んだ：ひとつは、イスラエルの建設が反ユダヤ主義に対する唯一の万能薬であること、もうひとつは、イスラエルは宗教的にも文化的にもユダヤ民族のものである場所に建設されたということである。

先住民であるパレスチナ人の存在は、当初は完全に否定され、その後、矮小化された。そしてようやくパレスチナ人の存在が認められると、それは不幸な偶然の一致として示された。

そして、「中東で唯一の民主主義国家」を自認するイスラエルは、歴史的なパレスチナ全域に対する自国の権

オリープの会通信 第33号(通巻39号)

利とされる「譲歩」を提示することで問題を解決しようとする寛大な平和主義者の烙印を押した。

「道徳」の崩壊

イスラエルを支えてきたモラルの支柱が、いつから崩れ始めたのかを正確に特定するのは難しい。

1982年のイスラエルによるレバノン侵攻がこの浸食のプロセスを始めたと言う人もいれば、1987年の第一次パレスチナ・インティファダを変革の瞬間と見る人もいる。いずれにせよ、世界の世論におけるイスラエルのイメージは数十年にわたって変化し続けている。

しかし、しばしば無視されるのは、パレスチナの抵抗と回復力がなければ、ユダヤ国家の正当性と道徳性が試されることはなかったということである。

私は、イスラエルが歴史的パレスチナの廃墟の上に国家を樹立したと宣言された1948年の時点で、現地の事実が世界中のより多くの人々に知られるようになったと主張したい。これは、パレスチナ人たちの努力と、彼らの拡大し続ける連帯ネットワークの直接的な成果である。

民主主義国家であり、「文明国」の一員であるというイスラエルのイメージは、それが国内的なものであれ国際的なものであれ、新しい情報とは一致しないように思われた。いわゆるイスラエルの民主主義は、パレスチナ人の市民権や人権を日常的に侵害するアパルトヘイト政権であることがますます露呈していった。

しかし、イスラエルの本性が暴露され、イスラエルの物語に対する拒絶反応が広まったにもかかわらず、世界中の支配的な政治エリートや政府の間では、イスラエルに対する態度はほとんど変わらなかった。

それどころか、パレスチナ人とのさまざまな連帯運動を先導しているのは、北欧諸国の政府である。しかし、彼らは、ボイコットや制裁、テルアビブからの資産売却を求める市民運動を法律で禁止することで、自国社会の言論の自由を抑圧しようとしているようだ。

グローバル・サウスは、イスラエルに対して毅然とした態度をとるという自国社会の要求を政府や支配者が無視している。これには、テルアビブとの外交関係を正常

化しようとする列をなしているアラブ政権も含まれる。

2022年11月にイスラエルで選挙が行われるまで、国際的な沈黙や加担が、世論の変化を具体的な行動に移すことからイスラエルを守ってきたように思われた。その証拠に、ボイコット・分離・制裁運動(BDS)のような運動の勇敢で実に印象的な活動は、現場の現実にも少しも影響を与えていない。

私は2022年11月までは、世論を具体的な政治に反映できないのは、世界中の政治システムがシニシズムに陥っているからだと考えていた。しかし今、私は、上からの政治のあり方を変えることだけが、パレスチナ人との信じられないほどの連帯を、地上の形成力に変えることができるかと心から信じている。

イスラエルがドイツに40億ユーロ相当のミサイルを提供し、オランダに3億ユーロ相当の別の種類のミサイルを提供したとき(いったい何から守るためなのか)、イスラエルの政治評論家たちは、このような兵器は、彼らがイスラエルを委縮させるキャンペーンと呼ぶものに対する最高の解毒剤になると主張した。

イスラエルのメディアは、イスラエルの兵士や入植者がパレスチナで行っている残虐行為を非難する言葉が行動に移されないように、武器によってヨーロッパから沈黙を買うことができると発表した。

【幻想のイスラエル】対ユダ

しかし、それだけではない。イスラエル国内のある種のユダヤ人有権者は、民主主義と自由主義に基づく西欧の「価値体系」を遵守しているから西欧がイスラエルを支持しているのだと信じて、自分自身を欺いてさえいる(実際、彼らは今もそうしている)。

私はこの構図を「幻想のイスラエル」と呼んでいる。

2022年11月、幻想のイスラエルは見事に崩壊した。

選挙で勝利したイスラエルのユダヤ人有権者は、民主主義や自由主義といった西欧の「価値観」に憧れを抱くことはなかった。

それどころか、ヨルダン川西岸地区とガザ地区を含む歴史的パレスチナ全域に広がる、より神権的で民族主義

的、人種差別的、さらにはファシスト的なユダヤ人国家に住むことを望んでいる。

ヨルダン川西岸とガザ地区を含む歴史的パレスチナ全域に広がる国家である。イスラエル人はこの国家を「ユダ」と呼び、幻想的なイスラエルと戦争状態にある。

ユダの人々は、国際的な正当性など気にしていない。彼らの指導者や教祖たちは、西側諸国の極右政党の指導者であれ、インドのような国の極右運動であれ、世界におけるイスラエルの新たな同盟国に強い感銘を受けている。

これらのナショナリストやファシストの指導者たちは、ユダヤの国家を賞賛し、国際的な支援ネットワークを提供しようとしているようだ。これはすでに、イタリア、ハンガリー、ポーランド、ギリシャ、スウェーデン、スペイン、そしてトランプの再勝利が実現すれば米国など、極右が大きな力を持つ国々の政策に反映されている。

表面的には、2022年11月に非常に暗いシナリオが開かれたように見えた。

しかし、これはまったく真実ではない。

幻想のイスラエルの失敗は、道徳的な柱と物質的な柱の間の興味深い結びつきを露呈した。

新自由主義的な資本主義システムには、幻想・イスラエルに取って代わるユダに投資する理由がないことが明らかになったのだ。国際金融企業や国際ハイテク産業は、ユダのような国家を不安定でリスクの高い海外投資先とみなしている。

実際、彼らはすでにイスラエルから資金や投資を引き揚げています。BDS運動は、2022年11月以降すでにイスラエル国外に持ち出されている資金に匹敵する数十億ドルをイスラエルから売却するよう、世界中の労働組合や教会を説得するために非常に努力しなければならないだろう。

この種の資産売却は、道徳的な理由によるものではない。これまでイスラエルは、パレスチナ人に対する冷酷な弾圧にかかわらず、国際的な金融投資先として魅力的な役割を果たしてきた。

しかし、幻想的なイスラエルのイメージ、とりわけその司法制度が新自由主義的・資本主義的な投資を保護できるという考え方が、外国人投資家を説得し、見返りの好配当を期待してイスラエルに資金を流入させたようだ。

今、ユダが幻想のイスラエルに取って代わるという見通しは、ユダヤ国家の経済的存続に深刻な影響を及ぼしている。そのため、イスラエルが自国の産業や資金を利用して、ユダヤ国家に対する他国の政策に影響を与えることは、より限定的なものとなっている。

総動員の時

幻想のイスラエルの崩壊は、社会的結束の亀裂や、多くのイスラエル人が過去と同じように兵役に時間とエネルギーを割く覚悟のなさも露呈した。

さらに、イスラエルの司法制度が攻撃され、その独立性が損なわれたことで、イスラエル軍兵士やパイロットは、海外の各国や国際司法裁判所（ICC）から戦争犯罪人として起訴される可能性がある。実際、現地の司法制度が独立した強固なものであると見なされれば、国際法は国内の問題に介入することはできない。

これは、パレスチナの解放と正義のために闘う人々にチャンスを開く、歴史上稀有な瞬間である。

テヘランでの会合で、イランはパレスチナのハマスとレバノンのヒズボラに対し、いかなる行動も慎み、イスラエル内部からの崩壊を許すよう助言した。

パレスチナを解放する軍事的可能性がある、あるいはあったという意味ではないが、私はそうは思わない。しかし、今はパレスチナの民衆の抵抗に活力を与え、パレスチナ人とその支持者の双方を、合意されたビジョンとプログラムのもとに団結させる時なのだ。この動員は、1918年以来、民主主義と自決のためのパレスチナ民族闘争に根ざしている。

解放され、脱ジオン化された未来のパレスチナは、今となっては幻想のように見えるかもしれないが、幻想のイスラエルとは異なり、良識のあるすべての人々を地域的、地域的、そして世界的に活気づける絶好のチャンスである。それはまた、現在歴史的パレスチナに住んで

オリブの会通信 第33号(通巻39号)

いる人々や、そこから追放された人々、つまり世界中のパレスチナ難民に安全な場所を提供することになるだろう。

– イラン・パペはエクセター大学教授。元ハイファ大学政治学上級講師。著書に『The Ethnic Cleansing of Palestine』『The Modern Middle East』『A History of Modern Palestine』など: One Land, Two Peoples (ひとつの土地、ふたつの民族)、『Ten Myths about Israel (イスラエルに関する10の神話)』などがある。1980年代初頭に英国とイスラエル政府の関連文書が公開されて以来、1948年のイスラエル建国の歴史を塗り替えてきた。彼はこの記事を The Palestine Chronicle に寄稿した。



古代ユダ王国



書記長会議： 抵抗勢力逮捕におけるパレスチナ自治政府とイスラエルの一致を踏まえて

投稿日時: 2023年7月19日 10:44 (PFLPのHPより)
アラン・アラン

パレスチナ自治政府の治安当局は、特に「ジェニンの戦い」でのレジスタンスの歴史的勝利の後、イスラエルのシン・ベットと、どちらがパレスチナのレジスタンスの幹部を多く逮捕するかをめぐる競争に入った。ヨルダン川西岸の各州では、拘束者の数はシオニスト情報機関であるシン・ベットの数をはるかに上回っている。

パレスチナ内務省の声明は、その内容において、パレスチナ自治政府の治安サービスが、ジェニンとヨルダン川西岸の他の州において占領軍が達成できなかったこと

を達成するために懸命に働いていること、そして、パレスチナ自治政府が、ジェニンにおける最近の敗北の後、シオニスト主体に復讐したいと考えていることを裏付けている。パレスチナ自治政府内務省は、先週月曜日の夕方、イスラム聖戦運動、ハマス、アブ・アリ・ムスタファをはじめとするレジスタンス諸派の英雄たちが逮捕される中、ヨルダン川西岸北部のジェニンに「法と秩序」を敷くことを宣言した。パレスチナ自治政府 (Wafa) は、「法の支配を実施し、彼らの存在のすべての場所で私たちの人々のためのセキュリティと安全を提供するための継続的な作業」について述べた。

イスラム聖戦運動は、ヨルダン川西岸地区の全州で、

治安部隊による幹部や戦闘員、各派閥の抵抗勢力や幹部の逮捕に抗議するデモに火をつけて打撃を受けているが、これまでの言説や残りの派閥の言説は、権力への呼びかけを通じて、権力への対処において依然として模範的である。治安調整を停止し、抵抗勢力の追及と逮捕を停止することによって。

そして、当局は、この不名誉な役割を演じながら、オスロ合意、ワイ・リバー、ロードマップ計画で規定された役割を確認し、私は警察であり、占領の安全保障の代理人として、ネタニヤフ首相がジェニンの最後の戦いの前夜に再確認した役割を果たす。

ファシスト占領政府の利益のために、この政府は、限定的な自治の権限のために、抵抗勢力の戦闘員を逮捕し、ヨルダン川西岸で抵抗勢力の武器を武装解除し、治安調整を通じて占領に奉仕するために必要な役割を果たすことができるように、多くの便宜を図ってきた、この点に関して、シオニスト占領当局は7月9日、政治的譲歩と財政的インセンティブと引き換えに、パレスチナ自治政府の崩壊を阻止するつもりであると発表した：

– 占領へのほぼ完全な従属を保証する条件で、パレスチナ自治政府の崩壊を防ぐ。これらの決定には、パレスチナの清算基金に言及した「融資保証、債務決済、燃料価格の割引、税金の前払いなどを含むPAを救うための財政計画」の実行が含まれていた。

PA高官へのVIP許可証の返却。

– ヨルダン川西岸南部ヘブロン近郊のタルクミヤに新たな工業地帯を設立すること。これは、いわゆるシオニストのエリ・コーエン経済相（当時）が2020年にすでに提案していた古い提案だ。

自治政府の指導部とその治安サービスが占領のために非国民的な役割を果たしている一方で、抵抗勢力と左派の諸派が、今月末にカイロで開催される書記長会議に出席する自治政府大統領の招待を、彼らの承認を得て受け入れることを主張していることは注目に値する。自治政府大統領の招待に応じて、自治政府大統領が以前、2020年の「ベイルート-ラマッラ会議」で自らに約束した、安全保障調整の仕事をやめるという誓約を何一つ守らなかったという事実を無視して、自治政府大統領とその大統領の穴に何度も何度も噛みつきに行き、満足している。

そして、シオニスト組織との取引をやめ、その承認を撤回し、オスロ合意とその派生物から手を引き、ジェニン市とそのキャンプへの度重なる占領侵攻において、彼はすでに自らそれを断ち切り、この点に関する民族評議会と中央評議会の決定も以前に否定していた。

ここでの問題は、一族のディワンで、また家族関係において、解放と帰還という国家目標を達成するために、わが民族が何万人もの殉教者、囚人、負傷者を犠牲にした、制度的な愛国主義、革命、家族の不変の価値観や社会の尊敬される価値観から家族が逸脱したときに使われる「ああ恥ずべき恥ずべき」という言葉を用いて、自治政府の指導者を諫める問題ではない。

自治政府指導部の理想主義的な弁明言説は通用せず、自治政府の階級構造と1993年の設立以来当局に与えられた役割を科学的に読み解くことに基づいていない。民族派、左派、イスラム抵抗勢力は、今世紀に入ってからすでに何千もの声明や安保調整を糾弾する声明をダブらせ、自治政府指導部に手を引くよう要求してきた。私は最近、アカバとシャルム・アル・シェイクの了解を、祖国、特にジェニン、ナブルス、その他の県における武装抵抗を根絶するために、占領軍の治安維持要員になること、自治政府を支持することを目的とした数多くの声明や発言で糾弾した。

この役割に従い、自治政府はコマンド作戦の犯人を発見し、コマンド作戦が発生する前に阻止することに尽力しており、2015年に自治政府の諜報部長が轢き逃げやナイフの贈呈の際に行った発言を記憶している、彼はヨルダン川西岸の様々な部分でコマンド作戦数十を阻止したことを自慢している、と男性の消失にコミットしている占領軍が任意のパレスチナ人の都市、町やキャンプに入る場合に路上から自治政府のセキュリティ、およびこの役割によると、それはアメリカの役人が率いる共同作戦室にコミットしている。

占領軍がジェニン市とそのキャンプに侵入した瞬間、ムカタアの治安部隊が姿を消し、レジスタンスの兵士を逮捕するために市近郊の道路に待ち伏せを仕掛けた、この役割において、彼らは与えられた役割に従って占領軍に大きな奉仕をした。この役割の現実、(イスラエルとの)安全保障上の協調を停止したという当局の長の主張を変えることはなかった。

また、否定的な諫言や批判があるとすれば、それは弁証法的唯物論的アプローチに導かれた抵抗派に向けら

れたものであり、彼らは以前、オスロ合意に従って、自治政府指導部の構造、アプローチ、腐敗について階級的な読み方を提供してきた、シオニスト主体との利害関係で結ばれた、その中で育ち、成長したパレスチナ人コンプラドールが存在し、自治政府の枠組みの中にAn “infiltrated” アプローチが存在し、自治政府の指導部はパレスチナの大義をイスラエルの安全保障問題に変えてしまったという趣旨で。などである。にもかかわらず、これらの党派は、現場の現実の事実を無視して、依然として自治政府の指導部とその主要党派に賭けている。したがって、これらの事実を無視することによって、彼らはイデオロギーと自治政府の構造と役割に関するこれまでの読みを放棄し、自治政府に要求される役割を行使することから生じる受給権を支払うことを恐れ、国家目標を達成することなく、パレスチナの闘争を悪循環の中で回転させる理想主義的な言説で、ここで他の派閥と同一化する。

「同盟と対立」法は、同盟が対立に優先する民族解放の段

階における基本法であることは事実だが、パレスチナ自治政府のシオニスト主体への依存、オスロ合意によるシオニスト主体への依存に照らせば、この法は現状では適用できない、また、安全保障調整アプローチに照らしても、そして、あらゆる形態の抵抗に代表される民族解放の条件と統制、シオニストの敵との対立の永続、抵抗プログラムに基づく民族統一の達成に対するパレスチナ自治政府の指導者の敵意に照らしても、である。

最後に、パレスチナ自治政府議長によって招集された書記長会議に固執しないこと、そして、民族派とイスラム派が、パレスチナ自治政府の指導部に何度も何度も噛みつかれてきた後、民族的行動の道に戻るために、自治政府の指導部に賭けるのをやめ、自治政府の指導部とのこれまでの経験から利益を得て、民族的行動の道を発展させるために努力することの必要性について、声を上げなければならない。

アブマゼン大統領による書記長会議の招集を歓迎し、その結果にコミットするよう求める



2023年7月3日 | 21:01 (P.F.L.P.のHPより)

パレスチナ解放人民戦線は、アブ・マゼン大統領による書記長会議の招集を歓迎し、その招集が真剣なものであること、会議がカイロで開催されること、その結果に信頼性と真剣さをもって対処することを求めた、そして、ジェニンで起きている侵略と虐殺に直面し、エルサレムを含む占領地ヨルダン川西岸を完全に併合するという宣

言されたイスラエルの政策を具体化する、私たちの人々と私たちの権利に対する包括的な侵略、土地の没収と入植地の拡大に直面して、それによって出された指令と決定を遵守することを求めた。

人民戦線は、書記長たちの会議への招待を歓迎すると同時に、これまでの会議のような駆け引きから離れ、こうした会議を継続的かつ定期的に開催し、分断を終結さ

せるための入り口とし、内政問題に取り組み、占領との対立を管理する場とすることを求める、そして、パレスチナ人民のすべての構成要素と、パレスチナの土地におけるすべての表現と体現を持つファシスト的植民地シオニストとの間の包括的な対立としての紛争の性格を回復する国家戦略の再構築という観点から、これが必要とするものである。そのためには、敵との交渉や合意に対する有害な賭けを放棄し、オスロ合意やそれに続く合意、安全保障、政治的、経済的義務を取り消すための国民評議会や中央協議会の決定、そして国家主体に対する承認の撤回を実施することが必要である。ネタニヤフ政権は、

パレスチナ国家の樹立を拒否し、それについて考えることすら根底から否定し、アメリカ政権がこの政策とジェニンとパレスチナ人に対する侵略に提供した支援を、言動で体現している。

パレスチナ解放人民戦線

中央メディア部

3/7/2023

パレスチナ日誌

3月28日

- ・8万のデモがクネセットの近くで、衝突の脅威
- ・ハワラで入植者の攻撃で6人が負傷し、トラックが焼かれた。
- ・ネタニヤフは司法改革の計画を一時停止すると発表。
- ・占領軍はエルサレム旧市で、青年を逮捕。
- ・イスラエル、右翼のデモがエルサレムで、司法改革支持で。
- ・占領軍は、シュアファットとアナタキャンプを襲撃し、アルーザバニー一家の家を計測した。
- ・占領軍は、西岸とエルサレムで13人の市民を逮捕
- ・司法改革が一時停止されたあと、クネセットに判事を指名する法が上程された。
- ・入植者たちは、ヨルダン溪谷に前哨基地を設置した。

3月29日

- ・占領軍は、ディール・バルートの商業施設を取り壊した。
- ・ハマスは、継続的な入植者のアルアクサへの押し掛けを非難した。
- ・イスラエル軍大臣は、解任の決定にも関わらず、仕事を続けている。
- ・ヘルツォグ大統領は、司法快苦についての党間の話し合いを呼びかけた。
- ・数十人の入植者たちが、アルアクサに押し掛けた。
- ・占領軍は、南部ジェニンの検問所で青年を逮捕した。
- ・ハンスト53日目で、獄中者ハデール・アドナンの健康状態が悪化。

3月30日

- ・ベツレヘムで、老人と彼の息子が入植者たちに攻撃された。
- ・西岸とエルサレムで、2人の青年が負傷し、複数の逮捕者
- ・数十人の入植者が、アルアクサに押し掛けた
- ・土地の日から47年、民衆の怒りの日
- ・ Beit-Umar での市民の逮捕時に、呼吸困難者
- ・ジェリコの北で、家屋が取り壊された。
- ・パレスチナの家族を攻撃した二人の入植者が、逮捕され、起訴状がだされた。
- ・占領軍は、殉教者ラエド・アルカルミの息子を逮捕した。

3月31日

- ・サクニンで土地の日を記念した。
- ・ガザ回廊の国境で、パレスチナ人が土地の日を祝った。
- ・占領軍は、ガザの東での大規模なフェスティバルの参加者にサ

イル弾を発射した。

- ・ヘブロンでも土地の日を祝った。
- ・イスラエル；謝罪と引き換えに、国防大臣の解任の決定を覆した。
- ・殉教者ファイサルスタジアムに占領軍が攻撃し、呼吸困難者。
- ・ベツレヘムの南で、オリーブとブドウの数百の苗を根こそぎにした。
- ・占領軍は、ツバスの青年を逮捕・占領軍は、ハワラでの行進を攻撃し、参加者の一人を逮捕した。
- ・ Beit-Umar の行進の弾圧で、呼吸困難者

4月1日

- ・占領軍は、チゼンゴフ作戦の実行者のを取り壊す決定をした。
- ・占領軍は、ヘブロン市の入り口を閉鎖
- ・占領警察は、アルアクサ門でパレスチナ人を処刑した。
- ・エルサレムの司教などが礼拝の自由を補償するように呼びかけた。
- ・占領警察は、アルアクサオス区で3人の青年を逮捕した。
- ・ナビサレの村での占領軍との衝突で、実弾で青年が負傷した。
- ・リバーマン：ネタニヤフを攻撃し、彼に対するデモの継続呼びかけた。

・ベツレヘム：入植者たちは、ハリール・アルロウズの土地のオリーブの苗を伐採した。

4月2日

- ・占領軍エルサレムで青年を逮捕
- ・ Beit-Umar の近くで、兵士轢こうとしたパレスチナ人が銃撃された。
- ・その一時停止も関わらず数万のイスラエル人が司法改革に反対してデモをおこなった。
- ・ Beit-Umar での衝突で、数十人が負傷した。
- ・イスラエル警察は、テルアビブで19人のデモ参加者を逮捕。

4月3日

- ・入植者たちが、スリフの市民の複数の家を攻撃
- ・占領軍は215回目のネゲブのアラクビ村の取り壊しを行った。
- ・アルアクサへの103人の入植者の襲撃で、4人の青年が逮捕された。

4月4日

- ・ネタニヤフは、国防相の更迭の決定の履行を無期限に延期
- ・イスラエルのメディア；空軍司令官、訓練を拒否するパイロットは追放する
- ・シリアへのイスラエルの新たな侵略で2人が死亡

オリーブの会通信 第33号(通巻39号)

- ・テルアビブでの刺殺攻撃で3人が負傷し、実行者は逮捕された。
- ・占領政府は、C地区でのパレスチナ人の建設を監視するための予算を倍にした。
- ・入植者たちがアルアクサに押し掛けた。
- ・占領当局はエルサレムの青年を自宅監禁にした。
- ・入植者たちは、アルアウジャに新たな入植地の前哨地を設立した。

4月5日

- ・アルアロウブキャンプで子供が占領軍の銃弾で負傷した。
- ・アルハデールでも占領軍の銃弾で子供が負傷
- ・占領軍は、アルアクサのアルキビリモスクを襲撃
- ・ライオンズ・デンがアルアクサへの占領軍の蹂躪に警告
- ・ジェニン、トウラでの占領軍との衝突で、呼吸困難者。
- ・二発のロケットがガザから周辺入植地に発射された。
- ・占領軍は再びアルアクサ・モスクを襲撃した
- ・ベツレヘムの南東、ツクの街の衝突で、呼吸困難者
- ・アロウブキャンプを襲撃し、子供を逮捕した。

4月6日

- ・二日目、アルアクサから避難、封鎖された。
- ・ハマスは、アルアクサモスクを支援する大集会を組織した。
- ・アルスジャイアの東で、催涙弾を発射し、市民の家々に届いた。
- ・ペイト・ウマールで、占領軍の銃弾で、青年が負傷した。
- ・ホワイト・ハウスがアルアクサ・モスクの暴力に懸念を表明した。
- ・エルサレムの旧市で、少年が入植者に銃撃された。
- ・ガザ中央の拠点に占領軍機が爆撃
- ・イスラエル：7発のロケットがガザから発射された。
- ・占領警察は、エルサレム旧市での存在を強化する決定をした。
- ・中国で、イランとサウジの合意
- ・イスラム協力機構がアルアクサへの攻撃に関して緊急会議を開催。
- ・レバノンから激しい爆撃、数十のミサイルが北部イスラエルに打ち込まれた。
- ・イスラエル軍は、南部レバノンの郊外に爆撃
- ・ヒズボラ：アルアクサ・モスクは孤立していない、それに危害を加えることは地域に奉納を平げることに。

4月7日

- ・ファタは、総動員を呼びかけた。
- ・エルサレム：占領軍は、夜明けの礼拝を襲撃
- ・殉教者アブアリ・ムスタファ旅団は、占領拠点と入植地を標的にした。
- ・アルコッズ旅団：エルサレムの剣は、すべての領域でレディである。
- ・レバノンは、安保理にイスラエルの問題を訴えた。
- ・占領軍は、ジェリコ県とヨルダン渓谷を閉鎖した。
- ・入植者たちは、ツクで市民の車を攻撃
- ・入植者たちが、ヨルダン渓谷の市民の財産を攻撃
- ・アルビレの北の入り口で、入植者たちが車を攻撃
- ・占領軍の参謀部は、予備役の動員を命令
- ・カフル・カッダムの行進の弾圧で、占領軍の金属弾で6人が負傷した。
- ・ワディ・アルファラで占領軍の銃弾で青年が負傷
- ・ペイト・ダジャンの行進の占領軍の弾圧で呼吸困難者
- ・ガザの周辺入植地でのネタニヤフの会議に合わせて迫撃砲弾
- ・入植者たちが、ナブルス近くのフラシ・ペイト・ダジャンでビニールハウスを燃やした。

4月8日

- ・銃撃で2人の入植者が殺され、三人目が負傷した。

- ・ガザからイスラエルに40発のロケットが発射された。
- ・テルアビブ作戦で、一人死亡、6人負傷。実行者も負傷。
- ・ジェニンの南西、トウラの村での衝突で、呼吸困難者
- ・占領軍は、ナブルス周辺で軍事規制を強化
- ・ジェニン、占領軍がブルキンの街を襲撃したときに、2人が負傷した。

- ・中央ガザ、アルブレイジの東で、呼吸困難者

- ・占領軍は、アルハデールの街につながる道を閉鎖

- ・イスラエル軍は、北部西岸で、占領軍の位置が銃撃にさらされると発表。

- ・占領軍は、ハーン・ユニスの農地を銃撃した。

4月9日

- ・ベツレヘムの南の入り口を占領軍が閉鎖

- ・占領当局は、西岸に、6つの新たな入植地計画を承認した。

- ・占領軍はエルサレムの3人の青年を逮捕

- ・入植者たちは、デール・バロウトの市民たちを攻撃し、負傷者。

- ・入植者たちは、カルキリヤ・ナブルス道路をブロックした。

- ・占領軍は、ヘブロン南の入植地前哨基地のために増強した。

- ・アルハデールで、対峙と市民の家々への攻撃

- ・占領軍は、ジェリコに行く主要道路を閉鎖。

- ・占領軍は、アルアクサへの礼拝に入るのを妨害した。

- ・サルフィットの西で、入植者たちの投石で青年が負傷した。

- ・アルハデールで、フォト・ジャーナリストが占領軍の銃弾で負傷。

- ・シリアから3発のミサイルがゴランに向けて発射された。

- ・シリアの標的をイスラエルは爆撃した。

- ・過ぎ越しの4日目、数百の入植者たちがアルアクサを蹂躪した。

4月10日

- ・ヨルダンのすべての裁判所でパレスチナ民衆と連帯スタンディングが行われた。

- ・ラマラ西の占領軍との衝突で二人の子供が負傷した。

- ・占領軍は、エルサレムの二人の青年を逮捕した。

- ・西岸での逮捕キャンペーン

- ・ペイト・ウマールで、青年の逮捕の際に、呼吸困難者

・

- ・ジャバル・サビで入植者たちの行進に対する住民の抗議で121人が負傷。

- ・過ぎ越しの5日目で、1531人のアルアクサに押し掛けた。

4月11日

- ・ナブルスの衝突で、士官と兵士が負傷したことを占領軍が認めた。

- ・入植者たちは、ヘブロンの下町とヤッタの自治体公園を襲撃した。

- ・入植者の侵入にアルアクサを開くという決定

- ・入植者たちがベツレヘムの南のアルハデールの市民の複数の家を攻撃した。

- ・占領軍は、ジェニンに増援部隊とともに襲撃。衝突で負傷者。

- ・占領軍は、シュファット難民キャンプ青年と女性を逮捕した。

- ・過ぎ越しの6日目で、788人の入植者が押し掛けた。

- ・ヘブロンで占領軍兵士が青年を殴打した。

- ・占領軍は、イサウィヤを襲撃し、青年を逮捕

4月12日

- ・入植者たちは、ナブルスの南で70本のオリーブの木を伐採した。

4月13日

- ・エルサレムの諸教会：イスラエルは、聖墳墓教会へのアクセスに制限を課している。

- ・イスラム聖戦の代表団が、イラクを公式訪問。
- ・占領軍はベイト・ウマルを襲撃し、2人の青年を逮捕した。
- ・占領軍は、西岸で12人の市民を逮捕

4月14日

- ・占領軍は、ナブルスの東で、市民を逮捕
- ・カフル・カッダムの行進の弾圧で3人が銃弾で負傷
- ・国際エルサレムデーで、ガザで、大規模な行進
- ・アルアクサでラマダンの4日目の金曜礼拝に25万人

4月15日

- ・占領軍は、エルサレム市民の活動家を攻撃しアルアクサ近辺で20人の市民を逮捕
- ・ジェニン大隊は、占領軍にさらなる攻撃の警告をした。
- ・ヨルダン渓谷で、占領軍は市民を逮捕した。

4月16日

- ・占領軍がアルアクサを襲撃
- ・占領軍はキリスト教徒が光のサバスを祝うために得るサムに入る手続きを厳しくしている。
- ・西岸とエルサレムでの逮捕

入植者たちが、ヘブロン西の土地を更地にした

- ・ベツレヘム近くで、入植者の投石で市民が負傷した。

4月17日

- ・15週根に入った、反ネタニヤフ政府デモ
 - ・この数年ではじめて、ハマスの代表団がサウジを訪問
 - ・占領軍は、カラシナ入植地に侵入しようとしたという理由で、パレスチナ人を逮捕した。
 - ・アブ・マゼン、サウジアラビアを訪問
 - ・ネタニヤフ首相の裁判、1カ月ぶりに再開
 - ・キフルハリスで入植者が市民宅を襲撃
 - ・ナビ・ヤコブ居住区での若者への占領軍の銃撃事件
- ヨルダン川西岸とエルサレムでの逮捕者

4月18日

- ・パレスチナ人、ガザで囚人の日を祝う
- ・ハン・ユニスの東で、占領軍が市民の家に向かって発砲した。
- ・ジェニン東部の入植地に向けて銃撃
- ・占領軍はイブラヒミ・モスクに通じるドアを閉鎖し、礼拝者がモスクにたどり着けないようにしている。
- ・シェイク・ジャラー地区で入植者が銃撃を受け負傷

4月19日

- ・2011年以来初めて、サウジ外相がダマスカスに到着
- ・モスクを含むザウィヤの町での作業と建設中止の通告19件
- ・占領軍、子供を含むベイト・ウンマル市民3人を逮捕
- ・負傷者8名 - 占領軍がジェニン・キャンプを襲撃、市民を逮捕
- ・イスラエル軍特殊部隊がナブルス東部のアスカル・キャンプから2人の若者を逮捕
- ・夜明けにアル・アクサを襲撃し、看板を押収
- ・逮捕 - 占領軍はシェイク・ジャラー作戦の実行犯を逮捕したと主張
- ・アル・アクサへの襲撃とパレスチナ国旗の没収
- ・入植者、ヘブロン旧市街の商店を取り壊す
- ・占領軍はアカバト・ジャベル・キャンプの入り口にガス弾を発射した。

4月20日

- ・ヨルダン川西岸とエルサレムでの衝突と逮捕

- ・エルサレム東部の「ギヴァット・ハマトス」入植地を拡大する新たな入植計画

4月21日

- ・ステロットのイスラエル政府賛成派と反対派のデモ
- ・ベータ州で2人が撃たれ、数十人が窒息した。
- ・イスラエル、ガザ地区周辺の入植地に10億と6億を計上
- ・イード初日。占領軍がベイト・ウンマルを急襲、3人の若者を逮捕

- ・占領軍、ナブルス南部の検問所でタムーン出身の青年を逮捕

- ・占領軍がエルサレムから3人を逮捕

4月22日

- ・入植者たちが「ハフィラ地区」を襲撃し、タルムードの儀式を行う

- ・占領軍がカランディア検問所で若い女性を逮捕
- ・占領軍によるベイト・ウンマル侵入時の窒息による負傷
- ・約4,900人の囚人が、イード・アル・フィトルの間、家族と一緒にいることを占領軍に妨げられている。

- ・占領軍は、殉教者モアタズ・アル・カワジャと囚人オサマ・アル・タウィールの家の取り壊しを決定した。

- ・占領軍がトウバスの若者を逮捕

- ・占領軍、ベイト・リマの若者を逮捕

- ・ネタニヤフ首相、サウジアラビアにイランとの関係修復の「結果」を警告

- ・カダー・アドナン受刑者、無期限ハンガーストライキを77日目も継続中

- ・シュアファト・キャンプで占領軍との衝突が勃発

- ・占領軍がエリコの入り口に軍事検問所を設置

- ・占領軍がナブルス南部で若者を逮捕、他を拘束

- ・バブ・アル・ラーマ礼拝堂を占領軍が襲撃し、電気設備を妨害した。

4月23日

- ・第16週... 数万人のイスラエル人が“改革”に反対するデモを行う

- ・占領軍は少女を逮捕し、エリコの入り口を閉鎖し続ける

- ・ディアダブワンの町で入植者の襲撃に立ち向かい、2人の若者が負傷した。

- ・占領軍、イードでベツレヘム検問所を閉鎖しパレスチナ人を虐待

- ・ヨルダン渓谷北部のアイン・アル・サコットで羊飼いを追う入植者たち

- ・マサフェル・ヤッタのピリン村で発掘作業を始める入植者たち

- ・占領軍、南部ヘブロン市民5人を逮捕

- ・アラブ連盟は、イスラム教とキリスト教の聖域に対するイスラエルの継続的な攻撃の深刻さを警告する。

- ・ナブルス南部で入植者が市民を襲撃

4月24日

- ・負傷者 - ヨルダン川西岸での逮捕と対立のキャンペーン

- ・シリアのクネイトラを狙ったイスラエルの攻撃

- ・ドヘイシェ・キャンプで占拠軍との衝突

- ・占領軍、数日前にラファ海で逮捕された漁師を釈放

- ・占領軍、タムーン出身の青年を逮捕

- ・占領軍がラファの東で羊飼いを銃撃

4月25日

- ・ヘブロン出身の若者に対する刺殺実行容疑で



* この家は私たちのもの
この土地は私たちのもの
川から海まで
私たちの祖国
自由にしよう
石とオリーブの木を手に持って

リフレイン*

打ちのめされても、また立ち上がろう
彼らは私たちを傷つけることはできない。
私たちはそれを壊す
錆びた鎖
挫折なんてしない
根をたどろう
得たいものへ
自由なシャンパンでパーティーをしよう

リフレイン*

リフレイン*

閉じ込められた
ここは俺たちの家だ

何があろうと
私たちは引き下がらない
私たちの魂を奪い、骨がおられようとも
私たちの唯一の希望のグリッブを失わない
自由を歌おう... 我々が属するこの土地に。
私たちは強いから闘い続ける

リフレイン*

リフレイン *

2020年にガザでつくられた。英語の歌詞、Palestine Freedom Song! で検索すれば Youtube で視聴できます。

おいしいパレスチナ

マンサフ (パレスチナ風ラムのスパイス

焼き、ライスとヨーグルトソース添え)

マンサフはヨルダン川西岸のヘブロンで生まれた典型的なベドウィン料理である。家族が大勢集まるときやお祝い事、あるいは特別なゲストをもてなすときに出される。伝統的には丸ごとの子羊で作られ、この日のために屠殺されたことを示すために、子羊の頭が誇らしげに皿の中央に置かれる。肉はジャミード(乾燥ヨーグルト)を使ったヨーグルトソースで調理される。

ジャミードとは、ベドウィンがヤギの乳を保存する方法である。ヨーグルトを綿の袋に入れて乳清を取り除き、とろみがつくまで毎日塩漬けにする。袋の外側は定期的に水で洗い、乳清を取り除く。濾したヨーグルトは、丸いボール状に丸め、日陰で乾燥させる(直射日光の下で乾燥させると、ジャミードは白色ではなく黄色になる)。

ジャミードは、この料理に使う前に水と混ぜて戻す。新鮮なヨーグルトを使ってマンサフを作ることできるが、風味は酸っぱくはない(発酵の過程でジャミード特有の風味が生まれ、ラム肉を煮込むときにかすかな酸味が加わる)。

ラムのすね肉 4枚 (合計1.5キログラム/3ポンド5オンス)

皮をむいた中玉ねぎ 1個 (約150グラム/5オンス)

シナモンスティック 1本

海塩

750ミリリットル(3カップ)の水に一晩浸したジャミードボール(テニスボール大)2個(注参照)

ギリシャヨーグルト 4カップ

挽いたオールスパイス 小さじ1

挽いたシナモン 小さじ1

細かく挽いた黒胡椒 小さじ1

サフラン 少々

無塩バター 105グラム(大きじ7

500グラム(2カップ半) カラスパラまたはエジプト米(水洗いして水気を切る

盛り付け用

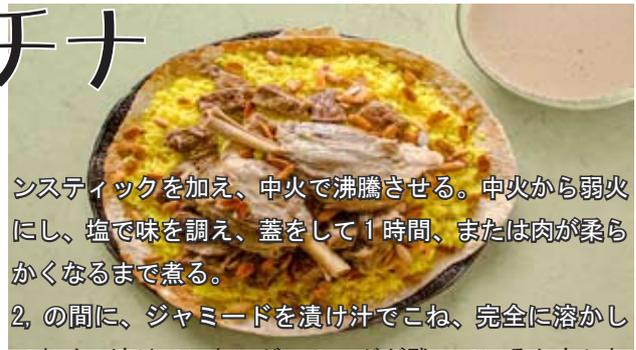
松の実 100グラム(1/2カップ

湯通ししたアーモンド 100グラム(1/2カップ

サジブレッド2斤(下記レシピ)

平葉パセリ(下の茎はほとんど捨てる) 少々(みじん切りにする

1, 大きな鍋にすね肉を入れ、水を張る。玉ねぎとシナモ



ンスティックを加え、中火で沸騰させる。中火から弱火にし、塩で味を調べ、蓋をして1時間、または肉が柔らかくなるまで煮る。

2, の間に、ジャミードを漬け汁でこね、完全に溶かしておく。溶けていないジャミードが残っているかもしれないので、煮汁を大きな鍋に漉す。ギリシャヨーグルトを加え、ヨーグルトが固まらないようにかき混ぜながら中火で沸騰させる。オールスパイス、シナモン、ブラックペッパー、サフランを混ぜる。ヨーグルトが沸騰したらすぐに火から下ろす。清潔なキッチンタオルで鍋を覆い、温めておく。

3 その間に、ジャミードを漬け汁の中でこね、完全に溶かす。溶けていないジャミードが残っているかもしれないので、その液体を大きな鍋に漉す。ギリシャヨーグルトを加え、ヨーグルトが固まらないようにかき混ぜながら中火で沸騰させる。オールスパイス、シナモン、ブラックペッパー、サフランを混ぜる。ヨーグルトが沸騰したらすぐに火から下ろす。清潔なキッチンタオルで鍋を覆い、温めておく。

3 小鍋にバターを入れて溶かす。ターメリックを混ぜ、米を加えてバターがよく絡むまでかき混ぜる。水1リットル(4カップ)を加え、塩で味を調える。沸騰したら火を弱め、蓋をして米が柔らかくなるまで10~15分煮る。清潔なキッチンタオルで蓋を包み、米の上にかぶせる。

4, その間にオーブンを425度に熱する。

5, 松の実とアーモンドをそれぞれ別の焦げにくい天板に広げ、オーブンできつね色になるまでトーストする(松の実は5~6分、アーモンドは7~8分)。オーブンから取り出す。

6, 茹でたラム肉をスープから取り出し、骨から肉をはずす。茹でたラム肉をヨーグルトソースに落とし、鍋を弱火にかける。お玉1~2杯分のスープを加えながら、生クリームのような固さのソースができるまでかき混ぜながら煮る。味見をして、必要なら味付けを調整する。

7, 盛り付けは、大きな丸皿にパンを並べる。パンの上にご飯を広げ、その上に肉を並べる。ヨーグルトソースをお好みの量かけ、汁気が出ないようにする。残ったソースはソースポットに注ぐ。トーストしたナッツを飾り、すぐに皿に盛る。



7月19日マイナンバーから逃げパレスチナで視察する河野デジタル大臣。通信情報相と会談



8月16日欧州を回る最初の航海を終えたガザ包囲突破船ハンダラ号



8月7日「死者の行進」48年領内のパレスチナ人がテルアビブで、犯罪に対する取締りをしないイスラエル警察に抗議



8月8日獄中者ワリッド・ダッカが重症にもかかわらず、イスラエル裁判所は釈放を拒否している

今号の内容

- イスラエルの深まる危機/パレスチナの矛盾・・・1
- エフド・バラク：市民不服従へ・・・2
- イラン・ペペ：ユダ対「幻想のイスラエル」・・・5
- 書記長会議：PAとイスラエルの一致・・・8
- PFLP：書庫長会議を歓迎する・・・10
- パレスチナ日誌・・・11
- パレスチナの愛した歌・・・14
- おいしいパレスチナー・・・15
- トピック・・・16



7月26日トルコでアブマーゼンとハマスとのハニヤ会談



8月24日ガザでグアバの収穫



8月20日パレスチナの新学期